

令和2年度 文化芸術に関する県主催イベント等の中止・実施について

I 中止する事業

NO	事業の名称	事業内容	実施時期	備考
1	Cultural Programs in Kanagawa 2020-2021 (イヤーブック)	オリパラに向けて増加していく訪日外国人客をターゲットとした、県文化事業及び県内各市町村で行われる通年の文化イベントを盛り込んだ冊子	6月末発行	オリパラの開催時期に合わせて製作
2	日本博・ナイトウェーブ	湘南地域の海岸において、波に光を当てるアート事業を実施する。	7月14日～8月5日	
3	日本博・舞台公演（能楽・オペラ）	県民ホールにおいて、能楽等にデジタルアートを組み合わせた公演を実施する。	8月8～9日	
4	日本博・工芸展	県民ホールにおいて、神奈川の一流工芸品の展示会を実施する。	8月4～9日	
5	NIPPONフェスティバル（共生社会）	横浜市内において、東京2020大会組織委員会主催の東京2020NIPPONフェスティバル」に参画する。	8月下旬	
6	日本舞踊ワークショップ 和の作法	オリンピック等の機会をとらえ、外国人向けのワークショップを実施	9月～12月	
7	日本博・流鏝馬	県庁前日本大通りににおいて、流鏝馬を実施する。	10月25日	
8	浮世絵カフェ	「和」をテーマとしたデジタル映像の映写とパフォーマンスを行うエンターテインメントレストランに取り組む。	通年	
9	マグカルナイト	水曜日の夜に、落語やスタンダップコメディなど様々なエンターテインメントを飲食しながら楽しめる取組。	通年	
10	マグカル開放区	県庁前日本大通りでマグカル開放区を実施する。	通年	バーチャル開放区を実施（6～7月に動画募集。8月までの視聴数を参考に表彰）
11	歌舞伎鑑賞教室	小道具や約束事の解説付き歌舞伎公演	6月	
12	青少年対象演劇鑑賞会	青少年の鑑賞機会を提供するための舞台芸術の上演	6～7月	
13	青少年芸術劇場公演	小学校低学年向けの鑑賞機会を提供するための舞台芸術の上演	7月	

NO	事業の名称	事業内容	実施時期	備考
14	かながわ伝統芸能ワークショップ 「日本舞踊に学ぶ'和'の作法」	小中学生向けに和の作法を体験するワークショップを実施(4会場)	7～8月	
15	青少年ダンス鑑賞会	青少年の鑑賞機会を提供するための舞台芸術の上演	8月	
16	第56回神奈川県美術展	美術作品の全国公募を行い、入賞作等の展示会を開催 オリパラ向けに障がい者アートと外国人向けの特別企画を実施	8～9月	
17	2020かながわの太鼓	県内太鼓演奏団体による創作太鼓の演奏会	11月8日	
18	全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	第6回全国高等学校日本大通りストリートダンスバトルを実施する。	11月	
19	2020きらめくふるさとかながわ民俗芸能祭	県内各地の民俗芸能を一堂に集めた公演	12月	
20	世界文化交流事業	日韓共同製作「外地の三人姉妹(仮)」 原作：チャーホフ「三人姉妹」	12月	
21	第48回相模人形芝居大会	相模人形芝居5座による合同公演	2月14日	
22	能楽ワークショップ	小中学生向けに能楽を学ぶワークショップを実施(2会場)	2月23日	
23	フリースクール等の子どもたちによる公演	フリースクール等の子どもたちによる舞台作品を制作・上演	未定	

II 実施する事業

○ 文化課の事業は啓発イベントではなく、文化イベントを実施すること自体が、文化芸術分野における人材の育成や文化芸術団体等による活動の場の創出とともに、活動再開の機運醸成など、コロナの影響を受ける文化芸術団体等への支援の側面があるため、次の文化イベント等を実施したいと考える。

- ・ 共生社会の実現などの県の重要施策を文化芸術の力で後押しする事業(共生共創事業など)
- ・ 文化芸術分野の人材育成は、対象者側からすると期間等が限定された貴重な機会(高校生向けのものであれば在学の3年間のみ)であり、そうした機会・場を用意しておく必要がある。(パフォーミングアーツ・アカデミー、マグカルシアター、演劇発表会など)
- ・ 伝統芸能関係は、担い手の高齢化が進む中、一度途切れると再開するには一層の労力を必要とする分野であり、こうした文化イベント等の実施により、しっかりと次世代につないでいくことが重要である。(こども歳時記、リ・古典、能楽や相模人形芝居のワークショップなど)

※ 感染症の流行の状況を踏まえ、最終判断

※ 実施する場合には、各施設等のガイドライン(マスク・消毒・検温など)を遵守。

区分	No	事業の名称	事業内容	実施時期	備考
共生社会	1	共生共創事業 (シニア劇団・障がい者ワークショップ等)	シニア劇団(3団体)、シニアダンス企画(1団体)の運営、公演の実施 <共生社会の実現・未病改善(社会参加・運動)>	通年	①劇団(稽古・公演):稽古は原則オンライン、公演は全てオンラインで実施 ②ダンス(WS・公演):オンラインで実施 ③公演事業:オンラインで実施 ④ライブサイトでの公演:中止
	2	パフォーミングアーツ・アカデミー	マグカル事業を進めるうえで核となる舞台芸術にかかると育成を目指す。 <人材育成・活動の場>	通年	①劇団員の募集・練習:8月から再開 ②4月の発表会:中止 ③8月の公演:12月に延期し、実施した。
若手人材育成	3	マグカルシアター等	青少年センタースタジオHIKARIを公演会場として提供し、文化芸術人材の育成を目指す。 <人材育成・活動の場>	通年	①シアター:9月から再開。R3年1月の緊急事態宣言を受け、原則中止又はオンラインで実施する。 ②青少年のための芝居塾、マグカルハイスクール演劇フェスタ:中止 ③春季高校演劇発表会:今後検討
	4	マグカルシアター in アートホール	アートホールを公演会場として提供し、文化芸術人材の育成を目指す。 <人材育成・活動の場>	2月22～23日	ライブ配信あり。
	5	マグフェス(短編演劇アワード)	30分の短編演劇及び戯曲を全国公募し、コンペティションを開催してグランプリを決める。 <人材育成・活動の場>	3月21日	無観客上演・ライブ配信で実施する。
	6	マグフェス(かながわミュージカルアワード)	かながわの地域色豊かなミュージカル公演を実施する。 <人材育成・活動の場>	3月21日	無観客上演・ライブ配信で実施する。
	7	かながわ演劇博覧会	入場無料、出入り自由な演劇の博覧会 <人材育成・活動の場>	3月13～14日	今後検討

区分	No	事業の名称	事業内容	実施時期	備考
子ども・青少年	8	青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的とした創作舞踊発表会 ＜人材育成・活動の場＞	11月1日	無観客・ライブ配信で実施した。
	9	中・高校演劇発表会	生徒・学生が日頃の演劇活動の成果を発表するとともに、同世代の演劇を鑑賞し、相互に学び合いうことを目的とした発表会 ＜人材育成・活動の場＞	11～12月	高校：無観客で実施した。 中学：生徒1人につき保護者2名までの観覧制限及び学校ごとの入替制で実施した。
	10	演劇部お助け講座 (中学生・高校生対象)	中・高校の演劇を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的なアウトリーチ講習会 ＜人材育成＞	1月～2月	学校文化連盟と協働で開催しているため、連盟の意向を踏まえて判断する必要がある。
	11	かながわ人形劇フェスティバル	人形劇等の活動成果発表や相互交流 ＜人材育成・活動の場＞	2月27日、28日	演者と観客との間にビニールパーテーションを設置（予定）
	12	青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	中高生向けに、時代に合ったより先進的な、映像、舞台美術、ダンス振付の3つのワークショップを実施し、青少年の創造活動を支援 ＜人材育成＞	3月	広いスペースの換気が十分な会場で実施し、参加定員を最少人数とする。
	13	新しいダンスの心技体+創	第一線で活躍するアーティストを学校の部活動の現場に派遣して、指導を行うことで、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供 ＜人材育成＞	3月	本来はアウトリーチ型での実施を計画していたが、感染対策を十分に確保できる会場（青少年センター）にて、参加人数を絞って実施する。
伝統芸能	14	人形浄瑠璃 文楽	世界無形遺産に登録された人形浄瑠璃文楽の公演 ＜人材育成・活動の場＞	10月18日	客席数半分以下とし、入替時に座席消毒を行って実施した。
	15	第36回かながわ音楽コンクール	県内における音楽教育の向上・優れた音楽的才能の発掘・音楽の普及を目的として実施 ＜人材育成・活動の場＞	10月4日 11月1日	①コンクール：中止 ②コンクール入賞者によるコンサートは中止し、コンクールにエントリーしていた者によるチャレンジコンサートを実施した。
	16	相模人形芝居学校交流ワークショップ	県立高校などにおける相模人形芝居のワークショップ ＜人材育成＞	12月12日	文化課の感染防止ガイドラインに基づき、主催者及び受講者のマスク着用・手指消毒の徹底と受講者同士の距離の確保を行ったうえで実施した。
	17	フレッシュ・コンサート	新進芸術家のスキルアップと人材育成のため、コンサートを実施 ＜人材育成・活動の場＞	2月27日	
	18	リ・古典	県にゆかりのある伝統文化を再生（リ）し、発信する。 ＜機運醸成・活動の場＞	2月	オンライン配信にて実施予定。
	19	かながわ伝統文化子ども歳時記	紅葉ヶ丘地域の文化施設を会場に、子ども（親子）が様々な伝統文化を体験・鑑賞できる周遊型フェスティバル ＜人材育成＞	3月13日	出演団体数を減らし、出演者の人数も絞った。また、客席数を半分にし、体験型企画も当初計画の半分以下の規模とする。